

謹賀新年



情熱羅針盤

ジャパントラストかわら版



遙か昔から、地球の約七割は海に覆われています。広大な海を、様々な船が人や物に乗せて行き来し、そうして海運業界は世界と世界を繋いできました。それは今も、これからも変わりません。



【代表取締役社長 菅 哲賢】

ビジネスの世界でどんなにIT化が進んでも、実際に物を運ぶ産業がなくなることはありません。海運業が世界経済、社会基盤を支える非常に重要な産業であると、私は確信しています。日本の海外への輸送の99%以上を担う海上輸送が健全でなければ、日本の産業界の発展はありえないでしょう。

しかし、日本の海上輸送は、そのプロである私たちが懸念するほど危機的な状況にあります。2000年代からの船会社間の過当な競争は、海上運賃の壊滅的な値崩れをもたらしました。船会社の数は、ここ数年で約半数になり、日本のコンテナ船社は一社に集約されました。日本へのサービスも年々数が減少し、やせ細ってきています。この状況はいまだ続いており、荷主・船会社・海貨業者、そして私たちフォワーダー、海上輸送にかかわるすべての人が憂慮すべき事態となっています。もし過去のように、今一度日本の配船サービスが拡充されれば、それにより選択肢が増え、さらにそれらが安定することで、より短いトランジットタイムのサービスなどの提供を受けられます。荷主様にとっては、在庫の削減など、安い運賃よりも大きなメリットを得ることができ、根本的な日本の国際競争力・産業力のアップにつながるでしょう。

今年こそ、船会社が健全経営できる環境になることを、そして安定したリーズナブルな適正運賃で継続して配船し、輸送海運業界が安心・確実に従来の活気を取り戻すことを、ひいては荷主に利益が還元される環境になることを、切に願います。

代表取締役社長 菅 哲賢

Letter from U.S.A.

アメリカでの年末年始の過ごし方ですが、残念ながら日本のような風情も休みもありません。実際、祝日とされているのは1/1のみで、多くの企業は12/31まで働き、1/1は休みですが、1/2からまた通常業務となっています。その代わりに、11月末のThanksgivingから12月25日のクリスマスまでがHoliday Seasonと呼ばれ、実際はずっと休んでいるわけではないのですが、由緒正しいアメリカ人は気分は休みモードになっているようです。



【クリスマスディナーパーティーの様子】

また、Thanksgiving翌日のBlack Fridayと呼ばれる日はクリスマス商戦のスタートとなっており、アメリカの小売業界では、1年のうち最も売り上げがある日だそうです。実際、この期間はどこも大幅なセールス合戦をしており、皆、本当によく買い物をします。

仕事の話に絡めて説明しますと、7月～11月くらいまではアメリカへの輸入貨物においてはPeak Seasonと呼ばれ、スペースタイトになったり、時には海上運賃が上がったりすることもあります。これはまさにこのクリスマス商戦関連の貨物が大量にアメリカに輸入されることによるものです。



なお、弊社では毎年12月に社員およびそのゲストを招いてクリスマスディナーパーティーを開き、クリスマスプレゼントも提供して1年の労をねぎらうのが恒例となっています。

Great Luck Inc. General Manager Takashi Kamiya

【1月のアメリカの祝日】1月1日:元日 / 20日(1月第3月曜日):キング牧師の日